

研究課題評価表（事前評価）

課題コード	①	評価実施日	令和3年12月9日（木）		
試験研究課題名	次代への承継に向けた農業法人の経営体制のあり方と、効果的な支援手法の解明				
試験研究機関名	農業・園芸総合研究所				
担当部署・担当者名	担当部（情報経営部） 担当リーダー名（櫻井 晃治）				
研究期間	令和4年度～令和6年度				

項目別評価	評価項目	評価				係数平均	比重	採点
研究目標のニーズ適合性・地域への貢献度	中村 部会長	菊地 副部会長	麻生 委員	西條 委員		4.5	20	18.0
	A	S	A	S				
	<p>S：極めて高い A：高い B：普通 C：やや低い D：低い</p> <p>【中村部会長】少子高齢化に伴い家族経営から農業法人経営へとシフトせざるを得ない現状において、今後、農業法人における事業継承が大きな課題となる。事業継承支援に関する本研究の地域への貢献度は高い。</p> <p>【菊地副部会長】近年、大規模農業生産法人化が進んでおり、宮城県は特に震災以降多くの経営体が設立されていることから、ニーズの適合性、地域への貢献度は高いと考える。</p> <p>【麻生委員】地域の担い手でもある農業法人は、農業従事者が高齢化していく中で、後継者への事業継承が必要となっている。農業法人の円滑な事業継承は必要であり、その支援手法を明確にすることは必要な課題である。</p> <p>【西條委員】事業継承の様々な手法を必要とする法人、農業者に伝え、スムーズに引き継ぎが行えるように支援する事は地域への貢献度が高いと思います。</p>							
緊急性・優先性	中村 部会長	菊地 副部会長	麻生 委員	西條 委員		4.8	20	19.2
	S	A	S	S				
	<p>S：極めて高い A：高い B：普通 C：やや低い D：低い</p> <p>【中村部会長】震災を契機として設立された農業法人も多いが、農業法人の事業継承に関する知見が少ない。事業継承の課題が顕在化する前に取り組む必要がある。</p> <p>【菊地副部会長】震災から10年が経過し、事業継承の準備期間に入ってきたと考えられることから緊急性・優先性は高いと考える。</p> <p>【麻生委員】農業法人では構成員の高齢化により、後継者への事業継承および組織体制の見直しが必要であり、事業継承に対する支援も求められていることから、効果的な支援手法の解明は早期の対応が必要と考える。</p> <p>【西條委員】スムーズなバトンタッチを行うには前もっての十分な準備が重要になってくるので、震災からも10年経ち早期に取り組んだ方がよいと思います。</p>							
独創性・先進性・優位性	中村 部会長	菊地 副部会長	麻生 委員	西條 委員		3.8	20	15.2
	A	B	A	A				
	<p>S：極めて高い A：高い B：普通 C：やや低い D：低い</p> <p>【中村部会長】ヒト・モノ・カネ・ワザの各経営資源を包括的に扱い、効果的な事業継承支援手法を見いだす点で、独創性、先進性がある。</p> <p>【菊地副部会長】農研機構から農業法人における経営継承対策に関する冊子が刊行されており、地域ごとでの取り組みも必要な重要課題として既に位置づけられていることから、独創性・先進性が特に高いとはいえない。</p> <p>【麻生委員】課題を整理して対応策を解明することは重要であり、手法の可視化および定量化を組み合わせた研究であることは、独創性、先進性は高いと感じられる。</p> <p>【西條委員】デジタル機器を利用してのワザの見える化は独創性、先進性が高いと思います。</p>							

市場性・成長性	中村 部会長	菊地 副部会長	麻生 委員	西條 委員		4.3	20	17.2
	A	A	S	A				
	<p>S：極めて高い A：高い B：普通 C：やや低い D：低い</p> <p>【中村部会長】農業法人の事業継承についての知見は一般的には得られにくく、効果的な支援手法が求められている。</p> <p>【菊地副部会長】農業法人の速やかな事業承継は当然その後の市場性・成長性につながると考える。</p> <p>【麻生委員】県内では東日本大震災後に多くの農業法人が設立され、後継者への事業承継が必要となっている事例もみられていることから、市場性と成長性は高いと判断される。</p> <p>【西條委員】事業承継のあり方を必要としている法人、農業者は多いと思われるし、その手法が明らかになれば今後必要性は増すと思われます。</p>							
実現可能性	中村 部会長	菊地 副部会長	麻生 委員	西條 委員		3.8	10	7.6
	A	B	A	A				
	<p>S：極めて高い A：高い B：普通 C：やや低い D：低い</p> <p>【中村部会長】県内外の農業法人における事業継承の実態調査により具体的な支援手法が見いだされ、デジタル器機の活用により熟練者のワザを可視化できると考えられる。</p> <p>【菊地副部会長】目標の設定が漠然としており、どこまで達成したら成果と言えるのかがあいまいである。状況把握とはどこまでカバーすれば状況把握と言えるのか。支援体制とはどこまで支援することを想定しているのか。あらかじめ何らかの形で設定していただくと良いと思う。</p> <p>【麻生委員】熟練作業者のワザの可視化および定量化をいかにデジタル化することができるかが重要と感じた。</p> <p>【西條委員】異業種や県内外の成功した事例を参考に是非実現して欲しいです。</p>							
人・予算・設備等の推進体制	中村 部会長	菊地 副部会長	麻生 委員	西條 委員		2.8	10	5.6
	C	B	A	C				
	<p>S：非常に優れている A：優れている B：妥当である C：やや不足 D：不足</p> <p>【中村部会長】農業経営相談所(県・関係機関)や商工系関係機関、民間コンサル等、連携する範囲が広く、また、ワザの可視化に伴うデジタル技術開発も時間や費用がかかる。計画されたチームで効率的に進められるよう期待する。</p> <p>【菊地副部会長】研究のために必要な経費の根拠が示されていないため、評価はできない。</p> <p>【麻生委員】妥当と判断されるが、外部委託費が増える可能性を感じている。</p> <p>【西條委員】デジタル機器を利用しての見える化を考えると人、予算、やや不足の気もします。</p>							
							100%	82.8

*採点の計算方法：係数（S＝5点、A＝4点、B＝3点、C＝2点、D＝1点）の平均値（四捨五入）を5で割った値に項目の比重をかけたものを採点とする。（100点満点とする。）

総合評価	評価				評価平均	総合評価
	中村 部会長	菊地 副部会長	麻生 委員	西條 委員		
	A	A	S	S	4.5	S

評価基準：

S：ぜひ採択すべきである **A：採択したほうが良い** **B：計画を見直した上で、採択しても良い**
C：採択の必要性は低い **D：採択すべきではない**

*総合評価の計算方法：係数（S＝5点、A＝4点、B＝3点、C＝2点、D＝1点）の平均値を評価平均とし、その平均値（四捨五入）に該当する評価を総合評価とする。

所
見

【中村部会長】これから10年、20年後の食料生産を考えたとき、若者(異分野も含む)の農業参入の支援強化とともに、生産の中心となる農業法人の経営の安定化、継承は極めて重要な課題である。本研究では、ヒト・モノ・カネ・ワザの各経営資源を包括的に扱い、まず事業、技術の継承の現状を把握してから、目指すべき農業法人の経営体制を明確化し、技術継承システムの構築、さらに支援手法の確立も目指している。研究機関等と連携しながら3年間という短い期間での計画なので、効率的に進めて是非目標を達成して頂きたい。

【菊地副部会長】近年、農業法人は地域農業の中核的担い手として重要な役割を果たしている。農業法人の後継者を育成し事業承継を円滑に進めることは喫緊の課題であり、この研究課題に対する重要度は高い。研究課題の目標は事業承継の実態把握から始まっており、状況を把握しないうちは目標を設定しづらいと推察はするが、課題を進めるにあたっては具体的な項目や数値目標を示しておくことが望ましく、現状把握後は具体的な目標設定をお願いしたい。

【麻生委員】地域の担い手でもある農業法人は、農業従事者が高齢化していく中で、後継者への事業承継および組織体制の見直しが必要であり、事業承継に対する支援も求められていることから、その支援手法を明確にすることは必要な課題である。

手法の可視化および定量化を組み合わせた研究であることは、独創性、先進性は高いと感じられるが、熟練作業者のワザを可視化および定量化していかにデジタル化することができるかが課題と感じた。

【西條委員】震災後に多くの法人ができ、地域の担い手として重要になっており、それをより良く引き継いでいける次の世代の人材確保、効果的な事業承継の手法はこれからますます必要になってくるので、早期の解明に期待したいです。

デジタル機器を使ったワザの見える化も利用し、それぞれの法人、農業者に合ったスムーズな事業承継の効果的な手法が明らかになれば地域への貢献度は非常に高いと思います。

研究課題評価表（事前評価）

課題コード	②	評価実施日	令和3年12月9日（木）		
試験研究課題名	気候変動に対応した「高品質宮城米」安定生産を図るための栽培方法の確立				
試験研究機関名	古川農業試験場				
担当部署・担当者名	担当部（作物栽培部） 担当リーダー名（菅野 博英）				
研究期間	令和4年度～令和8年度				

項目別評価	評価項目	評価				係数平均	比重	採点			
		中村 部会長	菊地 副部会長	麻生 委員	西條 委員						
研究目標 のニーズ 適合性・ 地域への 貢献度		A	A	S	S	4.5	20	18.0			
		S：極めて高い A：高い B：普通 C：やや低い D：低い 【中村部会長】コメどころ宮城で過去10年間において、一等米比率が東北6県で最下位が6回の記録は不名誉であり、みやぎ米を推進するためには安定して良品質米を収穫できる栽培技術の確立が必須である。 【菊地副部会長】水稻は宮城県の基幹作物であり、宮城県の農業を推進するためにもコメの品質維持・向上は必須である。 【麻生委員】本県的水稻主力品種である「ひとめぼれ」「ササニシキ」の一等米比率上位県を目指した高品質生産技術は非常に重要である。気象変動に着目した適切な栽培管理法の実証と確立は地域編貢献度が非常に高いと判断される。 【西條委員】温暖化など変化する様々な条件下で高収益・高品質なみやぎ米を生産する技術の確立は地域への貢献度が非常に高いと思います。									
	緊急性・ 優先性	S	S	A	S				4.8	20	19.2
		S：極めて高い A：高い B：普通 C：やや低い D：低い 【中村部会長】今後も温暖化を含む気候変動の影響が長期間に続くと考えられおり、品質低下による所得減少は生産者のモチベーションを低下させることから、栽培技術の早急な見直しが必要である。 【菊地副部会長】温暖化対応は喫緊の課題であり、緊急性・優先性は極めて高い。 【麻生委員】宮城米の品質向上を目指した取り組みは非常に優先性が高いと判断されるので、温暖化に対応する栽培方法を効率的に実現しなければならない。 【西條委員】温暖化に対応し、安定した収量・品質のみやぎ米を生産する技術は早期の対応が必要だと思います。									
独創性・ 先進性・ 優位性		A	B	A	A	3.8	20	15.2			
		S：極めて高い A：高い B：普通 C：やや低い D：低い 【中村部会長】長年の蓄積された知見があり優位性が高い課題である。 【菊地副部会長】これまで取られてきた対応を改めて精査する研究課題と考えられるので、独創性・先進性はそれほど認められないが、重要な研究と認識しているので頑張ってください。 【麻生委員】気象変動の影響で水稻品質が低下していることは予想されるが、これまで蓄積していた情報を用いて解析し、栽培方法を確立する試みは評価できる。予報技術までの向上を企画している点も評価される。									
市場性・ 成長性		A	A	A	A	4.0	20	16.0			
		S：極めて高い A：高い B：普通 C：やや低い D：低い 【中村部会長】宮城県を代表する品種であり、市場性は高い。 【菊地副部会長】コメの品質維持・向上は市場性・成長性に大きく影響すると考える。 【麻生委員】宮城米の品質向上は生産者の願望であり、消費ニーズも非常に高いことから、市場性と成長性は高いと判断される。									

		【西條委員】高品質なみやぎ米を生産するうえで市場性は高いと思います。						
実現可能性	中村 部会長	菊地 副部会長	麻生 委員	西條 委員		3.8	10	7.6
	A	B	A	A				
	S：極めて高い A：高い B：普通 C：やや低い D：低い 【中村部会長】品質の変動要因がある程度絞られており、実現性は高い。 【菊地副部会長】生育ステージが変動している可能性があること、温暖化が進み異常気象も頻発していることなどから、明確な解決策を見出すのは難しいと考えるが、栽培指針を示していただければ、生産者にとって大きな支援となると考える。 【麻生委員】本課題は、作況および生育に関する長年にわたる調査結果から、気象変動との関連性を実証し栽培法を確立できるかにかかっているため、成功を祈念している。 【西條委員】今までのデータの蓄積もあり実現可能性は高いと思います。							
人・予算・設備等の推進体制	中村 部会長	菊地 副部会長	麻生 委員	西條 委員		3.0	10	6.0
	B	B	B	B				
	S：非常に優れている A：優れている B：妥当である C：やや不足 D：不足 【中村部会長】限られた予算ではあるが、試験方法等はこれまで培われたものがあり、計画を十分推進できるものと思われる。 【麻生委員】予算は若干不足と感じた。古川農業試験場で蓄積している作況および生育に関する長年にわたる調査結果を活用できることは非常に有効である。							
							100%	82.0

*採点の計算方法：係数（S＝5点、A＝4点、B＝3点、C＝2点、D＝1点）の平均値（四捨五入）を5で割った値に項目の比重をかけたものを採点とする。（100点満点とする。）

総合評価	評価				評価平均	総合評価
	中村 部会長	菊地 副部会長	麻生 委員	西條 委員		
	A	A	S	S		

評価基準：

S：ぜひ採択すべきである **A：採択したほうが良い** **B：計画を見直した上で、採択しても良い**
C：採択の必要性は低い **D：採択すべきではない**

*総合評価の計算方法：係数（S＝5点、A＝4点、B＝3点、C＝2点、D＝1点）の平均値を評価平均とし、その平均値（四捨五入）に該当する評価を総合評価とする。

所見	【中村部会長】コロナ禍により米の需要が落ちてきている中、米のブランド力の維持、向上はより一層重要になってきている。米の収量・品質はどうしても気象に影響されるところはあるが、それでも一等米比率が高く維持されている地域もある。想定されている品質の変動要因を踏まえて、宮城県において安定した収量・高品質を得られる栽培技術が確立、普及されることを期待したい。
	【菊地副部会長】一等米比率が東北6県で最下位という現状は、「みやぎ米ブランド化戦略」を損なう要因であり、早急な対応策が望まれる。気候温暖化は今後も進むことが予測されており、栽培技術だけでは難しい側面もあるが、栽培指針を示すことは今後の栽培管理方法に一定の基準を設けることになり、生産者の意識改革にもつながると考える。
	【麻生委員】本県の水稲主力品種である「ひとめぼれ」「ササニシキ」のブランド力向上を目指した課題であり、重要である。生産者ニーズと消費拡大の促進の面からも必要性の高い研究である。気象変動に着目した適切な栽培管理法の実証と確立を是非とも成功させて欲しい。
	【西條委員】温暖化など変化する気候、条件の下で安定した収量で高品質なみやぎ米を生産する技術は生産者の所得向上にもつながり地域への貢献度も高く、是非実現することを期待したいです。

研究課題評価表（事前評価）

課題コード	③	評価実施日	令和3年12月9日（木）		
試験研究課題名	堆肥の利用拡大に向けた「特殊肥料等入り指定混合肥料」の製造及び利用方法の検討				
試験研究機関名	畜産試験場				
担当部署・担当者名	担当部（草地飼料部） 担当リーダー名（荒木 利幸）				
研究期間	令和4年度～令和6年度				

項目別評価	評価項目	評 価				係 数 平 均	比 重	採 点
		研究目標のニーズ適合性・地域への貢献度	中村 部会長 A	菊地 副部会長 A	麻生 委員 S	西條 委員 S	4.5	20
		S：極めて高い A：高い B：普通 C：やや低い D：低い 【中村部会長】循環型農業の推進、化学肥料価格の高騰の両方の観点から、地域への貢献が期待される。 【菊地副部会長】化学肥料低減に向けた技術開発は、日本だけでなく世界からも求められる急務である。法改正に伴い、地域に適合する混合肥料の製造・利用方法を検討する本研究課題の地域への貢献度は高いと考える。 【麻生委員】畜産業における堆肥の利用拡大は喫緊の課題であり、「特殊肥料等入り指定混合肥料」の開発に取り組む課題は大いに評価できる。 【西條委員】堆肥が広く有効利用されることは循環型の農業にもなり地域への貢献度は高いと思います。						
	緊急性・優先性	中村 部会長 A	菊地 副部会長 A	麻生 委員 A	西條 委員 A	4.0	20	16.0
		S：極めて高い A：高い B：普通 C：やや低い D：低い 【中村部会長】コロナ禍の多方面への影響はしばらく続き、それに伴う化学肥料の高騰も続くことが想定されることから、早急に検討する必要がある。 【菊地副部会長】持続可能な開発目標の観点からも、堆肥を活用する循環型農業の推進が望まれており、優先性は高いと考える。 【麻生委員】本課題の「特殊肥料等入り指定混合肥料」の開発は、化学肥料の利用量低減に繋がり、畜産農家の課題軽減と循環型農業の推進のために重要である。 【西條委員】堆肥の利用拡大のために優先するべきだと思います。						
	独創性・先進性・優位性	中村 部会長 A	菊地 副部会長 B	麻生 委員 A	西條 委員 A	3.8	20	15.2
		S：極めて高い A：高い B：普通 C：やや低い D：低い 【中村部会長】令和2年12月に肥料配合に関する規制の緩和が行われたばかりであり、先進性が高い。 【菊地副部会長】独創性や先進性よりも、農業者のニーズに合致させることが重要な課題である。 【麻生委員】肥料制度の改正時に、「特殊肥料等入り指定混合肥料」は堆肥と化学肥料の施用の省力化が期待されている肥料であることは、その先進性が評価される。						
	市場性・成長性	中村 部会長 A	菊地 副部会長 A	麻生 委員 A	西條 委員 A	4.0	20	16.0
		S：極めて高い A：高い B：普通 C：やや低い D：低い 【中村部会長】今後、配合肥料のメリットが確認されれば、市場性が高い。 【菊地副部会長】本研究課題の推進により、堆肥の利用に新規の需要が得られる可能性があり、市場性・成長性は高いと考える。 【麻生委員】農業・園芸総合研究所、古川農業試験場と共同で、それぞれの作物に適した施用技術も開発されることは、市場性が高いと判断され、広く普及すると期待できる。						

	【西條委員】課題は色々あると思いますが市場性、成長性、共に高いと思います。							
実現可能性	中村 部会長	菊地 副部会長	麻生 委員	西條 委員		4.0	10	8.0
	A	A	A	A				
	S：極めて高い A：高い B：普通 C：やや低い D：低い 【中村部会長】県の各農業関係試験機関とも連携して行われる研究で、試作も行われていることから実現性が高い。 【菊地副部会長】既存の研究成果があり、問題点も明確であることから実現可能性は高いと考える。 【麻生委員】「特殊肥料等入り指定混合肥料」に向けた試作は既に実施されており、水稻や園芸作物を対象とした農業・園芸総合研究所、古川農業試験場と共同で実施されることから、実現の可能性が高いと判断される。 【西條委員】肥料製造業者との協力、耕種農家・法人との協力などうまく話がまとまれば実現可能性は高まると思います。							
人・予算・設備等の推進体制	中村 部会長	菊地 副部会長	麻生 委員	西條 委員		3.0	10	6.0
	B	B	B	B				
	S：非常に優れている A：優れている B：妥当である C：やや不足 D：不足 【中村部会長】これまでも肥料の試作と肥効を検討されており、十分推進できると思われる。 【麻生委員】畜産試験場、農業・園芸総合研究所、古川農業試験場の共同で行うことから、妥当な予算と考える。							
							100%	79.2

*採点の計算方法：係数（S＝5点、A＝4点、B＝3点、C＝2点、D＝1点）の平均値（四捨五入）を5で割った値に項目の比重をかけたものを採点とする。（100点満点とする。）

総合評価	評価				評価平均	総合評価
	中村 部会長	菊地 副部会長	麻生 委員	西條 委員		
A	A	S	A	4.3	A	

評価基準：

S：ぜひ採択すべきである A：採択したほうが良い B：計画を見直した上で、採択しても良い
C：採択の必要性は低い D：採択すべきではない

*総合評価の計算方法：係数（S＝5点、A＝4点、B＝3点、C＝2点、D＝1点）の平均値を評価平均とし、その平均値（四捨五入）に該当する評価を総合評価とする。

所見	【中村部会長】本研究は国の令和2年の「特殊肥料等入り指定混合肥料」の要件緩和をとらえた先進的なもので、地域資源の堆肥の有効活用と化学肥料の使用低減を兼ねており、地域への貢献が高い。さらなる循環型農業の推進のためにも本研究の成果を期待したい。
	【菊地副部会長】家畜糞尿は畜産環境問題の発生要因となる一方、土壌改良資材や肥料としての利用価値が大きい貴重なバイオマス資源である。令和2年度の肥料制度の見直しに合致した、より農業者のニーズに対応する混合肥料の開発・普及は堆肥利用の拡大に非常に有効と考えられ、優先的に取り組むべき課題と言える。
	【麻生委員】肥料価格は上昇しており、本課題の「特殊肥料等入り指定混合肥料」の開発は、化学肥料の利用量低減および循環型農業の推進のために重要である。家畜ふん尿の堆肥は、作業性や成分の安定および形状化等の課題があるが、課題を克服して畜産農家および耕種農家にも積極的に利用してもらう必要がある。優先的に取り組むべき課題であると考えられる。
	【西條委員】地域資源である堆肥の有効利用が拡大することは循環型農業が推進されこれからの時代にも必要なことだと思います。色々なところに働きかけ、肥料メーカーとうまく話がまとまり実用化されるよう期待したいです。